

更級日記 門出②

◇次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

あづまぢの道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふものあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、【A】のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、そらにいかでかおぼえ語らむ。いみじく心もとなきままに、等身に薬師仏をつくりて、手洗ひなどして、人まにみそかに入りつつ、「京に疾く上げ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ。」と、身を捨てて額をつき、祈り申すほどに、十三になる年、上らむとて、九月三日門出して、いまたちといふ所に移る。

年ごろ遊びなれつる所を、あらはにこほち散らして、たち騒ぎて、日の入り際の、いとすごく霧りわたりたるに、車に乗るとて、うち見やりたれば、人まには参りつつ、額をつきし薬師仏の立ち給へるを、見捨て奉る悲しくて、人知れずうち泣かれぬ。

問1 傍線部①・⑤・⑥・⑧を現代語訳せよ。

問2 傍線部②は、「なんとかして(物語を)見たいものだ」という意味になるが、それを実現するために作者のとった行為の箇所を本文中から抜き出し、最初と最後の四字を答えよ。

問3 傍線部③とあるが、この作品に先行する作品として適当なものを、次から二つ選んで記号で答えよ。

ア 竹取物語 イ 栄花物語 ウ 平家物語 エ 伊勢物語 オ とはずがたり

問4 空欄Aには、作者が特に意識している物語の主人公名が入る。その名前を漢字三字で答えよ。

問5 傍線部④について、a「語る」、b「聞く」の主語をそれぞれ答えよ。

問6 傍線部⑦はどういう様子を述べたものか、説明せよ。

問7 傍線部aとdの「なる」のうち用法の同じものが二つある。それはどれとどれか、記号で答えよ。

問8 傍線部⑨の「奉る」について、a敬語の種類、bその品詞、c誰からの、d誰に対する敬意で使われたものかを答えよ。

問9 作者が神仏に祈っている言葉の箇所を、本文中から過不足なく抜き出して答えよ。

問10 平安時代の他の日記文学作品を三つ答えよ。